

初等教育学科長
北川 歳昭

平成21年度初等教育学科新入生ガイダンス挨拶

入学おめでとう。皆さんは今日から生徒(教えを受ける者)ではなく、学生(学ぶ者)です。教えてもらうのを待つのではなく、自ら学び追究していく姿勢が求められます。

本学科は、教育・保育の専門職を育成する学科、「センセイ!」と呼ばれる仕事に就きたい人たちが学ぶ学科です。「先生」とは、本来は自分より先に生まれた人(年長者)を指す言葉でしたが、そこから、教える人、その人への敬称の意味が加えられたそうです。子どもたちや保護者から先生と呼ばれるにふさわしい魅力ある人間を目指し自分を磨いていってください。

初等教育学科は開設3年目の新しい学科。学生の皆さんとともにこの学科の伝統を創っていこうと思います。

本学科の教育基本方針をキーワードで紹介します。

去華就実(本学の教育理念、内面の充実が大切ということ)。幅広い**教養と語学力・国際性**(人文科学部にある教育系学科という特色)。確かな専門知識と専門技術(教育・保育の専門家を目指します)。広い**視野をもち広範囲の領域で活躍**。(複数の資格・免許の取得)。**カウンセリングマインド**(子どもの心を大切にできる良き理解者・支援者になって欲しい)。**実践力・応用力と協力・奉仕の精神**(教育は実践科学であり、チームプレイです。部活やボランティア活動、教育実践研究センターの活動にぜひ参加を)。皆さんが4年間でこれらを身につけてほしいと願っています。

次にこの学科が求める人材としてあげる項目を紹介します。

- (1)子どもが好きで、子どもとのふれあいに喜びを見いだせる人。
- (2)子どもの幸せのために、知識を広げ、技能を高め、思考を深めることに意欲的な人。
- (3)人格や発達の多様性を受け入れ、一人ひとりの成長可能性を信じることのできる人。
- (4)人と人の絆を大切に、人を導いたり支えたりすることに勇気をもって挑戦する人。

これらは、目指すべき人格的成長の目標でもあります。

センセイになるために本学科で学び身につけるものは、卒業後、社会や職場で必ず役に立ちます。4年間の学修で形成される**人格的成長、人間尊重の態度、コミュニケーション能力**は、まさに現代社会で求められているものだからです。

最後に、皆さんに4つの具体的な提案をします。

- (1)**挨拶**。挨拶は人間関係の基本。授業の最初と最後、学内外で出会ったとき、教職員だけでなく、学生同士も。
- (2)**授業の充実**。休まず遅刻せず、授業料を取り返すつもりでしっかり学びましょう。
- (3)**課外活動、ボランティア活動**。子どもの遊びが発達を促すのはそれが自発的活動だからです。自発的・自主的な活動で自分のもつ潜在能力を開花させましょう。
- (4)**目標と計画**。4年間は長いようで短いものです。卒業後の進路をにらんだ履修計画を立てましょう。先生方や先輩方にも相談してください。

4年後、皆さんが夢を実現し笑顔で卒業できるよう、教職員一同、一生懸命バックアップします。がんばりましょう。

入学にあたって

初等教育学科1年 乙倉 里衣

4月1日、新しいスーツに身を包み、少し大人になったような気持ちで就実大学に入学しました。今までとは全く違う環境で不安も多々ありましたが、研修旅行をきっかけとして友人との距離も縮まったような気がします。部活動やクラス会を通して先輩方にアドバイスを頂き、大学生活にも慣れて色々な事を楽しむ余裕もできました。

これから沢山の事に挑戦し、夢への実現に向けて有意義な4年間にしていきたいと思います。

子どもの気持ちに寄り添い、ともに考えることのできる教員になることを目標に、絆を大切に、人間性を高められるように努力していきます。





<友禅染体験>

お昼ご飯を食べた後に向かったのは、古代友禅苑。ここでは、友禅染を実際に体験してもらいました。初めて体験する人がほとんどでしたが、丁寧に教えていただき、とても楽しく充実した時間を過ごすことができました。京都の文化に触れることができ、良かったと思います。



初等教育学科1年
山崎 愛

研修旅行



<出発>

待ちに待った研修旅行。朝早い集合でしたが、みんな元気いっぱい!! バスの中では、さすが初等教育学科、手遊びをしたり、童謡をうたったりと、とても盛り上がりました。また、トロッコ列車では、気持ちの良い風が吹き、列車から見た景色にみんなのテンションもあがっていきました。



<レクリエーション>

各クラス、研修前から準備してきたクラスアピールを発表しました。6クラスとも内容がバラバラで、各クラスの個性がとても輝いていました。全体レクリエーションでは、先生方にも混ぜていただき、また、話したことのない子とも話すことができました。レクリエーションはとても楽しく、時間が経つのがあっという間に感じました。



<最後に>

2日目はクラスに分かれて自由研修でした。研修前に考えた計画に従って、目的を持って行動できました。今回の研修旅行を通して、クラスの間が深まり、さらにクラスを越えてたくさんの友達ができました。みんなと一緒に楽しい時間が過ごせて、最高の思い出をつくることができました。これからの大学生活もみんなと協力し、楽しく過ごせていけたら良いと思います。



就職プロジェクト

2月17日(火) 10:30~12:30にE402にて、就職プロジェクト講演会を開催しました。

教員就職率が5年連続で全国1位の兵庫教育大学から、渡邊満教授を講師としてお迎えして「教師になる夢をかなえるために —『彼を知り己を知れば、百戦あやうからず』— 」という題目で講演していただきました。

講演では、教員採用試験に合格して「教員になる」ことと、一生かけて修養を積み重ねて「教師になる」ということを区別して、「教師になる」ことについて熱く語られました。その上で、「教員」になるために必要な情報として、採用試験の実施状況や求められる教師像などについてわかりやすく話していただきました。

今回の講演会は小学校教諭の採用試験についての情報が主でしたが、保育士、幼稚園教諭の採用試験にも共通する部分があり、将来について考える貴重な機会となりました。

当日は、初等教育学科の1年生95名、2年生77名が参加し、子どもに関わる仕事の重要性を再認識し、すぐにも対策を始めようと意欲を新たにしていました。

(棚田 真由美)



長島愛生園での施設見学について

初等教育学科1年 山崎 智也

我々は当り前のように、人間は人間らしく生きていかなければならないと唱えるが、それは建前でしかない。私たちが生きるのは社会的弱者に厳しい社会であり、それは今も昔も同じである。今回の研修では、



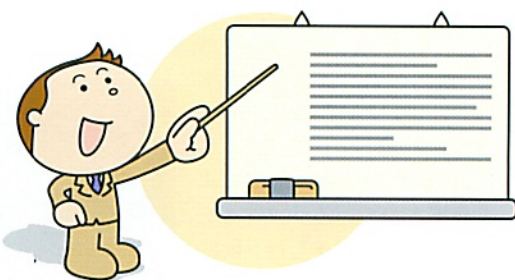
そのような社会に対してハンセン病療養所の入所者の方々が、懸命に人間としての「今」を生きていくために立ち向かっていた様子が見えてきた。そしてまた、入所者の方の体験談を聞くことで、人間としての自由や権利を自ら手にすることがどれほど困難で、意味のあることを学ぶことが出来た。私たちがこうして人権問題について考えることが出来るのも、差別を受け壮絶な人生を歩んだ人々が築いた道があるからこそであり、その道に立って考えることの重みを十分に感じ取る必要がある。

ハンセン病などに対する偏見や差別といった問題は今なお根強い。偏見や差別のない社会をつくることは出来るのは、今を生き、自ら行動できる人間だけである。そのためには正しい知識をもつことが不可欠である。少なくとも今回、ハンセン病についての事実を知る貴重な機会を得たのだから、無関心でいることは許されない。

今回、長島愛生園の施設見学や講話が、私自身にとって、社会の様々な問題を考える糧となったことを誇りに思う。

初等教育学会講演会のお知らせ

来る2009年11月14日(土)、午後1時30分から、安田女子大学の片上宗二教授をお迎えし、『学習指導要領の政治的、理論的、実践的役割とその位置づけ方—小学校社会科学学習指導要領の場合を中心に—』という題目で、初等教育学会主催の講演会を開催いたします。講演者の片上教授は、先般改訂された新学習指導要領に、小学校社会科の作成協力者として深く関与されております。社会科を中心に、学習指導要領改訂に際し、何が継承され何が継承されなかったか、そこに内在する理論的特徴、新指導要領をどのように踏まえ実践へと生かしていけばいいか、などについて、作成協力者の立場からお話をさせていただくことで、理解を深めていきたいと考えています。奮ってご参加ください。



第2回 初等教育学科

大運動会!!!

初等教育学科2年 古川 雄一



平成21年6月13日(土)、就実大学体育館で第2回初等教育学科大運動会が開かれ、1年生、2年生が各クラス別になり汗を流しました。この企画は、私たちが1年生の時に、今の3年生の先輩方が、新入生歓迎会という意味をこめて開いてくださいました。それまであまり先輩方と話す機会もなく少し不安でした。しかし、この運動会で1年生と2年生と協力して競い合い盛り上がったことで不安はなくなり、今ではいろんな先輩方と話したり、相談にのってもらったりするようになりました。そして今年、私たちが2年生になり新入生と歓迎したい、仲良くなりたい、先輩方にしてもらった運動会をしてあげたいという気持ちになり実行委員を募り企画しました。約3ヶ月間、実行委員のみんなでいろいろ考え、話し合いながら進めてきました。それまで大変でしたが、みんなで協力して1つの大きなことをする、成功させることのすばらしさを知るいい機会にもなりました。

今回の運動会もクラス別のかわいい、ステキなTシャツ着てドッチボールをしたり障がい物競走をしたり長縄をしたりと前回並みに大盛り上がりでした。

今回も運動会をやって盛り上がり、みんなに楽しんでもらい1年生と2年生の距離が少しでも縮まればと思います。このようなすばらしい初等教育学科大運動会が来年も再来年も代々受け継がれ盛り上がり続けていけばいいと思いました。

食育交流事業

を通して
初等教育学科3年 萩原 敏美



私は、2年間食育交流事業に取り組みました。食育交流事業とは、児童養護施設の子どもたちと私たち学生とが料理づくりを通して交流を深める活動です。今年の3月に1年間の締めくくりとして、1泊2日の宿泊研修を吉備高原都市の「体験学習農園」で行いました。ねらいは、自然の中で遊びや食事づくりを通し、エコの意識をもって楽しく過ごすことです。先生方のご助言をいただきながら、学生が中心となってプログラムの内容を検討しました。

公園で思いっきり遊んだり、落ち葉を拾ってきて焼き芋をしたり、夜には季節はずれの花火をしました。食事はすべて自炊です。マイバックを持参して、スーパーで買い物することから始め、ご飯は昔ながらの羽釜を使って薪で炊きました。おこげを頬張る子どもたちの表情はとても輝いていました。具にこだわった手巻き寿司、力をこめて作った手打ちうどんなどをマイ箸でおいしくいただきました。夕食後のお楽しみ会も子どもたちの出し物で盛り上がりました。子どもたちを中心に施設・大学の先生と学生が交流し、さらに施設の枠を超えて子どもたち同士も仲良くなり、とても温かい気持ちになりました。

秋吉ゼミ

野菜づくり



本年4月に図書館駐車場北にある土地が就実学園の農地として、初等教育学科、幼児教育学科、薬学部で3区分をして使われることになりました。初等教育学科では秋吉ゼミの実験・観察用農園としてこれから活用していきます。以前には荒地だったので最初に耕す時は大変でしたが、ゼミの3年生が協力して畝づくりに励み、5月にはサツマイモ、キュウリ、ナス、トマト、スイカ等の苗を植えました。これから水やりを続けて、植物が育つようすを観察し、キュウリ、トマト、ナス等は順次収穫していきます。本年度は小学校や幼稚園でよく栽培されているサツマイモを多く植えました。秋にはサツマイモを収穫するのが楽しみです。(秋吉 博之)



秋吉先生著書の紹介

山田卓三・秋吉博之編著

『理科教育法—理論をふまえた理科の授業実践—』
(大学教育出版、2009)

小・中学校教諭及び学部学生の手引き書。新学習指導要領で示された小・中学校理科の連続性をふまえて、小・中学校理科の「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の各領域の教材と学習指導の実践について詳述されています。また教育評価、環境教育、野外活動、理科の安全指導について解説してあります。さらに小学校6年「土地のつくりと変化」を例にあげて、研究授業の進め方と指導案作成の仕方について分かりやすく説明されています。



食の環境

すてきなガラスのコップ(離乳期の食器)に出会った。

K保育園の園長先生は、乳児が未熟な機能を補う食器、すなわち安全性、保温性、家庭的ぬくもり、扱いやすさ、清潔感があって美しさが保てるものを追及し続けていた。

それは、つい思わず手にとってみたい衝動に駆られてしまうほどの美しいガラスのコップ(倉敷ガラス)である。乳児にとっては、手のひらでしっかり持ち易く少しの傾斜で飲み易く、掌に入る大きさと高さ、そして唇で縁を挟み易く口の両端からこぼれない縁まわりのコップである。保育指針、食育の計画には、



子どもの咀嚼嚥下機能等の発達に応じて食品の種類、量、大きさ、固さ、食器等に配慮し、食べることを楽しむことができるよう工夫すると述べてある。食器は子どもの心を育てる大切な道具である、幼い頃から本物に触れさせ、食文化として使い方が自然に身につくよう心がけたい。(河合 富美子)



初等教育学科も開設から3年目を迎え、学内でのさまざまな行事に参加し、学外へ出かけていく機会も増えてきました。今年度からは3年生のゼミナールも始まりました。そして、2年生は実習へ、1年生はインターンシップに向けて準備しています。それぞれが目標を持ち、日々努力しています。

学生編集委員

- 3年生 山田祐子、原田侑佳、漆川 彩、福塚萌子、水田陽香、山崎由紀乃、池田康輔、高野昌幸
- 2年生 古川雄一
- 1年生 乙倉里衣、東 智子

教員編集委員

- 竹中伸夫、本田真美、村田恵子

